

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項 A 研究活動の状況

評価の視点			
A－1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。			
観点 A－1－① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。			
【留意点】なし。			
関係法令【設】第2条第2項			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）			
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。			
■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■ 定めている	◇定めていることがわかる資料		
	国立高専機構は、その設置基準において「教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行なわれるように努める」としている（資料A-1-1-(1)-01）。これを受け、研究推進・産学官連携活動「学生の教育と同様な重みをもつ基本的使命の一つ」と位置づけている。研究推進・産学官連携活動を通して、国立高専機構の教育水準の維持向上に努めるとともに、国立高専機構が持つ知的資産を積極的に社会に還元し、持続可能な社会の構築と人類の福祉の向上に寄与するとしている（資料A-1-1-(1)-02） この機構の方針を受け本校は、教育基本法の精神にのっとり、および学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的（資料A-1-1-(1)-03）とする。研究活動は、学生への教育内容の充実や社会貢献、自己研鑽等に寄与することを目的（資料A-1-1-(1)-04）とし、「第一線の研究こそが実践的技術者教育である」との認識のもと鶴岡高専10ビジョンの第一の柱として「研究する高専」を掲げている（資料A-1-1-(1)-05）。 この目的を達成するために本校のみならず第一ブロック主査校としてブロック高専の目標として科研費申請を行うこと、直近5年の間で、専門系教員は査読付き論文を少なくとも2編の執筆目標を掲げている。（資料A-1-1-(1)-06）。		
	資料A-1-1-(1)-01 「高等専門学校設置基準」		
	資料A-1-1-(1)-02 「高専概要2019一部抜粋」		
	資料A-1-1-(1)-03 「鶴岡工業高等専門学校学則」	第1条	
	資料A-1-1-(1)-04 「鶴岡工業高等専門学校における研究活動の目的と基本方針・活動方針」		
	資料A-1-1-(1)-05 「鶴岡高専10年ビジョン」		
資料A-1-1-(1)-06 「第一ブロック方針」			

観点A－1－② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

【留意点】

- 観点A－1－①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。
- 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。
- 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。

関係法令〔設〕第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 資料A-1-2-(1)-01 「組織図」 資料A-1-2-(1)-02 「地域連携センター運営組織図」 資料A-1-2-(1)-03 「地域連携センター規程」 資料A-1-2-(1)-04 「教育研究技術支援センター規程」 資料A-1-2-(1)-05 「K-ARCパンフレット」 資料A-1-2-(1)-06 「鶴岡工業高等専門学校研究者情報」 資料A-1-2-(1)-07 「鶴岡工業高等専門学校活動記録」 資料A-1-2-(1)-08 「鶴岡工業高等専門学校教員業績」 資料A-1-2-(1)-09 「鶴岡高専技術振興会規約」 資料A-1-2-(1)-10 「ソフトエナジーデバイス連携開発拠点」 資料A-1-2-(1)-11 「地域連携センターリーフレット」		
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料 資料A-1-2-(2)-01 「内部組織規程」 資料A-1-2-(1)-03 「地域連携センター規程」 資料A-1-2-(1)-04 「教育研究技術支援センター規程」 資料A-1-2-(1)-05 「鶴岡高専技術振興会規約」 研究シーズ内容、索引（コース別、分野別、シーズチャート別、研究キーワード別）、設備一覧、K-ARC、CDSエナジー、研究協力の手引きと手続きの資料 https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/seeds_2020.pdf	第7条、第8条 研究シーズ集2020	 再掲 再掲 再掲

(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(3)-01 「事務組織等規程」	第10条第5項：企画・連携係 各種研究支援、外部資金支援など	
	資料A-1-2-(3)-01 「事務組織等規程」	第10条第4項：図書情報 文献複写支援	再掲
	資料A-1-2-(1)-04 「教育研究技術支援センター規程」	教育研究技術支援センター 研究支援など：	再掲
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■ 行われている	◇研究活動の実施状況がわかる資料		
	資料A-1-2-(4)-01 「研究員派遣状況(学校総覧2019)」		
	資料A-1-2-(4)-02 「外部資金獲得状況」		
	資料A-1-2-(1)-06 「鶴岡工業高等専門学校研究者情報」		再掲
	資料A-1-2-(1)-07 「鶴岡工業高等専門学校活動記録」		再掲
	資料A-1-2-(1)-08 「鶴岡工業高等専門学校教員業績」		再掲
	資料A-1-2-(1)-04 「K-ARCパンフレット」		再掲
	資料A-1-2-(1)-10 「ソフトエナジーデバイス連携開発拠点」		再掲
観点A－1－③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。 【留意点】 ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■ 得られている	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料		
	教員の学術活動状況について年度ごとの件数を、研究論文（査読有）、著書、国際会議、研究論文（査読無、研究紀要含）、講演発表、解説・技術報告書、および教員の各種受賞状況などを個人ごとに管理（資料A-1-3-(1)-01）し、コースごとに取組め、人事係ならびに学校長が管理している。		
	資料A-1-3-(1)-01 「教員活動記録(個人用)」		
	資料A-1-3-(1)-02 「技術職員活動記録」		
	資料A-1-2-(4)-01 「研究員派遣状況(学校総覧2019)」		再掲
	資料A-1-2-(4)-02 「外部資金獲得状況」		再掲
	資料A-1-2-(1)-07 「鶴岡工業高等専門学校活動記録」		再掲
	資料A-1-2-(1)-08 「鶴岡工業高等専門学校教員業績」		再掲
	資料A-1-3-(1)-03 「地域連携センターリポート2018」		

観点 A－1－④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

- 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。
- 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。
- 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点 A－1－③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇改善の体制がわかる資料		
	資料A-1-4-(1)-01 「運営会議規程」		
	資料A-1-2-(1)-03 「地域連携センター規程」		再掲
	資料A-1-4-(1)-02 「地域連携センター会議 議事・名簿」		
	資料A-1-2-(1)-04 「教育研究技術支援センター規程」		再掲
	資料A-1-4-(1)-03 「R1教育研究技術支援センター運営会議資料」		
	資料A-1-4-(1)-04 「H30教育研究技術支援センター運営会議議事録」		
	資料A-1-4-(1)-05 「H30教育研究技術支援センター人員体制」		
	資料A-1-4-(1)-06 「地域連携センター学外イベント」		
	◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。		
	基本的な体制として、研究教育全般に関して学校運営委員会（資料A-1-4-(1)-01）、および地域連携センター運営委員会において審議が行われている。センターの運営に関しては分野長以上のコアメンバーにて定期的に情報交換を実施し、年度の内での調整をはかっている。教育研究技術支援センターにおいても同様に行っており、前年の反省を活かし、組織体制の見直しもはかっている（資料A-1-4-(1)-03、資料A-1-4-(1)-04、資料A-1-4-(1)-05）。 教員の研究業績、外部資金獲得に関しては毎年1回活動記録にて点数化された評価を自身で年間の取り組み状況を点数で振り返りができようになるとともに、コース長、学校長は個人だけではなく全体の成果の振り返りを点数でもって相対的に教員の取り組み状況を評価できるようにしている。 地域連携センターを中心として、市民サロン、イブニングセミナー、産業技術フォーラム、シンポジウムなど県間をとして12回以上学外に向けた発表を実施している（資料A-1-4-(1)-06）。		

A－1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			
研究活動の情報については、教員の研究分野、研究テーマ及び技術相談・協力できるテーマを国立高専研究情報ポータルで発信している（ウェブページhttps://research.kosen-k.go.jp/）。また、地域連携センターが発行している地域連携センターリポート【資料A-1-3-(1)-03 地域連携センターリポート2018（再掲）】では、本校の産学官連携活動の状況や教員・技術職員の研究テーマの状況をわかりやすくまとめて、鶴岡高専技術振興会会員（現在約120社）にむけて配布し、幅広く情報提供を行っている。学内で実施しているイベントはすべて会員メンバーに事前に直接案内を送付している。また、外部評価委員より高評価（資料A-1-特-(1)-03 選択的評価事項A評価結果）を得ていることよりも期待を上回る効果がみえてくる。			
	資料A-1-特-(1)-01 「国立高専研究情報ポータル」		
	資料A-1-3-(1)-03 「地域連携センターリポート2018」		再掲
	資料A-1-特-(1)-02 「令和元年運営協議会委員名簿」		
	資料A-1-特-(1)-03 「選択的評価事項A評価結果」		
選択的評価事項 A 目的の達成状況の判断			
■ 目的の達成状況が非常に優れている			
選択的評価事項 A			
優れた点			
校内のみにとどまらず、他高専・他大学・他研究機関・行政と密に連携をとって活動がなされている点。学外評価委員より5段階評価で平均4以上をすべての項目において達成（資料A-1-特-(1)-03 選択的評価事項A評価結果）できている点。			
	資料A-1-特-(1)-03 「選択的評価事項A評価結果」		再掲
改善を要する点			
研究成果を出せる教員が限定されている点。特例認定を取得できない教員が存在する点			